

2021 年度

法人運営事業報告

社会福祉法人

わらしべ舎

2021年度 法人 事業報告

1. 法人・施設のガバナンスの強化と経営の安定について

法人は、4月に生活介護事業所として羽黒台工房を開所し、西多賀工房と合わせて2つの通所施設、4ヶ所のGH、日中一時支援事業所(ひだまりステイ)を運営する法人となった。2つの通所施設の令和3年度の通所利用実績は、西多賀工房96%、羽黒台工房91%であった。新型コロナウイルスの影響で西多賀工房は3日間の閉所、羽黒台工房は利用者一人ひとりの障害特性や健康面などの理由により長期に通所利用を休む利用者が見られた。グループホームについては、宿泊率は昨年度より1%のアップが見られ、ひだまりステイについては、日中一時は100%、短期宿泊利用は90%の達成率であった。(各事業所の詳細は別添参照)

新型コロナウイルス感染症対策については、国・県・市から発出される予防対策や情報に基づき法人として対策マニュアルを作成し対応してきた。外来者の検温チェック、ワクチン接種(利用者、職員含め)、手洗い、消毒、マスク着用の徹底等に努め、特にカレーショップ「桜蔵」では徹底した予防の取組を行ってきた。2月に職員が家庭内感染より罹患したが、感染症対策マニュアルに沿った対応を行った。

事故防止については、事故防止対策委員会が中心となり、事故の把握と原因分析、対応策の検討、会議での報告による職員間での共有に努めるとともに、事故防止への取組の徹底を図った。11月に第三者委員会を開催して前年度の事故報告等を行った。

安定的な経営については、羽黒台工房開設に伴う借入金の返済等を含めて、会計事務所による毎月の収支を監査・指導を受け、補正予算を組み対応するなどして適正かつ計画的な執行に努めた。

なお、新型コロナウイルスにより、B型事業では販売や収入の落ち込みが見られ、昨年度と同じく影響がでていることから、今年度は販売促進を担う営業担当を配置し、PRや営業活動の取り組みを行った。

2. 法人設立30周年記念事業の実施について

新型コロナウイルスの収束が見えない中で、県の緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令などにより、当初開催を計画していた法人の30年の記念(式典)事業については、感染対策を講じても開催することが難しいと判断をした。しかし、法人としての節目でもあり、何か形あるものを残す必要があるということで、記念誌の発行を行うこととなり、幹部会のメンバーが実行委員となり準備を進めた。

3. 人材確保と人材育成について

4月に11名の新規職員を迎えスタートした。新規職員に対しては研修やチュータ制度により育成の取組を行ってきた。新型コロナウイルスの影響で外部研修への参加は難しい状況ではあったが、内部研修(8回)を実施することで、職員のスキルアップと育成に努めた。また、次年度に向けた職員の採用試験を実施し(5月・2月)10名の新規採用と11名の年度途中採用を行い人材確保に努めた。

4. 他団体との連携について

新型コロナウイルスの関係で予定されていた商店街による行事等の中止などがあり出店販売などでは影響が出たが、従来から取り組んでいる「天沼の活動」については行った。また、仙団協との関係では、総会は新型コロナウイルスのため開催されず書面審査にて行われた。理事長の交代は仙団協の事務局に報告をした。毎年実施している仙台市への要望事項の提出を6月に行い、9月に仙台市より文書にて回答があった。

○会議開催状況

①理事会

第1回 理事会	5月29日(土)	羽黒台 食堂	理事5 監事2 事務局1 欠1	2020年度法人・各事業報告、決算報告 他
第2回 理事会	6月10日(木)	羽黒台 リハ室	理事6 監事2 事務局1	理事長の選任 他
第3回 理事会	7月24日(土)	羽黒台 リハ室	理事5 監事2 欠1	宮床の土地に関して 他
第4回 理事会	11月27日(土)	西多賀市民 センター	理事5 監事2 欠1	補正予算(案) 上半期事業・予算収支報告 他
第5回 理事会	3月12日(土)	書面による開催		2022年度事業計画及び予算 (案) 補正予算案 他

②評議員会

第1回 評議員会	6月10日(木)	羽黒台 食堂	評議員7 理事2 事務局1	2020年度法人・各事業報告、決算報告 他
第2回 評議員会	12月9日(木)	わらしべ 食堂	評議員7 理事2 事務局1	補正予算(案) 上半期事業・予算収支報告 他
第3回 評議員会	3月23日(水)	書面による開催		2022年度事業計画及び予算(案) 補正予算案 他

③監査

監事監査	5月21日(金)	西多賀 食堂	監事2、理事長 業務執行理事 施設長、事務長	2020年度 業務・予算についての 監査
------	----------	-----------	------------------------------	-------------------------

④評議員選任・解任委員会

評議員選 任・解任 委員会	6月16日(水)	西多賀 食堂	委員5名 理事長、業務執行 理事	評議員の選任に関する件 他
---------------------	----------	-----------	------------------------	---------------

2021 年度
事業報告

- *多機能型事業所 わらしべ舎西多賀工房（生活介護・就労B型）
- *日中一時支援事業（わらしべ舎西多賀工房）
- *共同生活援助事業（グループホームわらしべ舎）
- *仙台市障害者家族等推進事業（ひだまりステイ）
- *生活介護事業所 わらしべ舎羽黒台工房
- *日中一時支援事業（わらしべ舎羽黒台工房）

社会福祉法人

わらしべ舎

多機能型事業所わらしべ舎西多賀工房

＜生活介護事業報告＞

- * 新入利用者 1 名が入舎し、生活介護事業所在籍者数が 20 名となった。
- * 利用時間が 45 分短縮になったことにより、利用者の活動・作業に大きな影響なかったが、職員の業務では会議や書類作成等に充てることができ、業務改善に繋がった。
- * エコ班から 6 名の利用者が羽黒台工房へ異動し、在籍者数が 24 名から 20 名となった。また支援者の異動も併せて行われた。
- * 国からの福祉事業所に対するコロナ感染予防経費補助を受け、作業場の区分けや感染対策の備品等の補充を行った。

【本年度重点目標】

- ① 利用者の作業能力の向上と個々の活動の幅を広げます
- ② 余暇活動の充実と多様化を図ります
- ③ 売上向上に向けた商品開発と委託作業の拡大を図ります
- ④ 支援員間の連携の強化と支援の質の向上及び育成を図ります

【実施報告】

- ① 作業・活動環境の整備（個室の設置やパネルデスクの設置など）を行うことにより、作業に継続して関わられる利用者が増えた
- ② コロナ禍での余暇活動ということで、感染予防に配慮しながら、施設内で「ハロウィン仮装パーティー」を実施したり、テイクアウトのランチを楽しんだり等を取り入れ行った
- ③ ・売上向上には直接的に関連していないが、西多賀工房周辺の花壇を整備し、訪問する方たちや地域の方たちにも見て楽しんでいただき、間接的な広報活動に繋がった
・西の平地区にアルミ缶回収の協力をいただき、10 か所に回収BOXを設置し、回収作業を行っている。回収した缶は利用者が潰したり、まとめたり等の作業を行い、最終的に回収業者に買い取ってもらい、回収場所が増えたことにより、大きな収益となっている
- ④ 利用者のケース検討を一人ひとり行い、そのことが利用者の状況・とりまく環境等を再確認し、支援者にとって日々の支援へと繋がった

＜就労継続支援B型事業報告＞

- * 利用者2名が羽黒台工房へ異動し、1名がエコ班へ異動した
- * 利用時間が45分短縮になったことにより、カレー班利用者の勤務時間と工賃等の条件を設定し、選択制とした
- * 営業担当職員を配置し、商品の宣伝や販売の営業を行い、新規販売先の開拓や取扱商品の拡大等に繋がった。また、担当職員を配置することにより、支援員の製品づくり、それを売るという意識の向上にも大いに繋がった
- * 国からの福祉事業所に対するコロナ感染予防経費補助を受け、ショップやキッチンカーの感染対策設備の確保を行った

【本年度重点目標】

- ① 一人ひとりの個別ニーズに適した作業や生活の支援を充実化させます
- ② 支援員の支援技術や製造技術の向上・効率化を図ります
- ③ 工賃アップにむけたサービス内容の向上と広報活動の強化を行います
- ④ 食品や製品の衛生管理を徹底します

【実施報告】

- ① ・個別支援計画作成前に対象利用者と面談を行い、希望や悩みなどを聞き取り、可能な限り反映させた計画を作成した。結果、意欲的に取り組む姿がみられるようになった
・利用者が主体的に活動を企画する機会を設け、歓迎会やテーブルゲームや談話会等を行った。コロナ禍における外出機会の減少状況から、本企画は楽しみや喜びを利用者間で共有できる時間となりニーズを充足させることができた
- ② 班単位や班長間でミーティングを実施することにより、課題表出や施設全体での連携を組み、円滑な業務を行うことができた。
- ③ ・キーマカレーのパッケージデザインが決まり、4月1日に発売する準備を行った
・仙台二華高校生と共に「北上川ヨシ石鹸」を作り、高校の文化祭で販売されることになった。またこれをきっかけにわらしべ舎でも販売できるようになった。石巻エリアへの営業も行った
・粉せっけんの量り売りを開始し、地域への宣伝活動を行った
- ④ ・衛生全般、食中毒、ノロウイルスについて衛生講習会を実施することによって、作業中に意識した行動や利用者間で声掛けし合うなど意識付けされている様子が見られるようになった。

日中一時支援事業（わらしべ舎西多賀工房）

施設利用時間の変更（45分短縮）を4月から実施し、その影響による日中一時支援の希望がどのくらい出るかと予想していたが、影響はなく今年度の利用は1件もない状況だった。

●わらしべ舎 西多賀工房 利用実績 (令和3年度 R4. 4月~R4. 3月)

	稼働日数	生活介護事業			就労継続支援B型事業						
		エコ班			カレー班				石けん班		
		在籍者数	利用延べ日数	利用率	在籍者数	利用延べ日数	利用率	土・日・祝日・出勤	在籍者数	利用延べ日数	利用率
4月	21	20	418	99.5%	11	215	93.1%	3人のべ3回	11	228	98.7%
5月	19	20	375	98.6%	11	198	94.7%	3人のべ3回	11	203	97.1%
6月	22	20	438	98.2%	11	225	92.9%	5人のべ5回	11	207	85.5%
7月	21	20	412	98.1%	11	212	91.7%	0人のべ0回	11	230	99.5%
8月	19	20	372	97.8%	11	184	88.1%	4人のべ4回	11	200	95.7%
9月	21	20	408	95.3%	11	214	92.6%	3人のべ3回	11	220	95.2%
10月	22	20	435	98.8%	11	225	92.9%	4人のべ4回	11	240	99.1%
11月	19	20	370	97.3%	11	197	94.2%	2人のべ2回	11	207	99.1%
12月	21	20	415	98.8%	11	217	93.9%	5人のべ5回	11	225	97.4%
1月	20	20	390	97.5%	11	204	92.7%	3人のべ3回	11	214	97.2%
2月	15	20	288	96.0%	11	142	86.0%	4人のべ4回	11	157	95.1%
3月	23	20	438	95.2%	11	222	87.7%	4人のべ4回	11	246	97.2%
合計	243	20	4759	97.9%	11	2455	91.8%	36人のべ36回	11	2577	96.4%

*全体 (R3. 4~R4. 3)・・・95.9% (9791/10206)

*2月はコロナ対策のため、西多賀工房を3日間閉所した

共同生活援助事業所（グループホームわらしべ舎）

- * 家族の高齢化、体調面、生活の変化等を理由に、自宅への帰省が難しい入居者が増え、グループホームで生活する日数が顕著に増加している
- * グループホーム利用が増加している状況の中で、支援体制の多くは世話人が担ってくれているが、世話人の高齢化の課題があり、退職者が数名あった。条件を整え、職員募集により、採用に繋がった職員もいるが、以前、課題の解消には繋がっていない。今後は世話人中心の支援体制を見直し、他事業とも連携した体制作りを検討し、支援体制を確立させていく
- * 嘱託医、かかりつけ医、看護師、通所施設、家族と連携して、増加している入居者の通院支援に対応している。

【本年度重点目標】

- ① 余暇の充実を行います
- ② 各ホームのサービス内容確立を行います
- ③ 安定した支援体制を確保していきます
- ④ 支援者のスキルアップを行います
- ⑤ 緊急支援体制の確立を行います

【実施報告】

- ①・新型コロナウイルスの影響により、休日に外出して余暇を過ごすこと等がなかなかできない状況だったが、少人数で近くのお店に買物に行ったり、タクシーを利用してのお出かけを感染状況やワクチン接種状況を見ながら行った
- ②入居者個々で休日に外出等の希望やニーズがあったが、コロナ感染予防を理由に積極的な移動支援の活用は難しかった。しかし、ホーム内で各自楽しく過ごせる環境整備を行った
- ③継続的に募集を行い、今年度は3名の採用者数であった。しかし今年度は3名の退職者もあった。昨年度からみるとそれぞれの理由（年齢や体調、家族等）から、7名退職した状況となっている。安定した支援体制を確立させていくためには採用面、フォロー研修、職員間の繋がり、法人全体で支援体制をつくっていくことが必要である
- ④・ケア会議を各ホームにて毎月1回開催し、情報共有・課題の共有・通所施設との共有・意見交換等を行っている
 - ・事故やトラブル、課題等に直面した時はその都度、緊急会議を開催し、事故の防止や対応の確認を行っている
 - ・法人で行っている職員研修にグループホーム職員も参加できるように配慮を行ったが、支援体制の不安定さから、参加できる職員は少ない状況だった
- ⑤・消防訓練をハーモニー西の平では年2回、他ホームでは年1回それぞれ実施し避難誘導方法の反復と防災意識向上に努めた

●わらしべ舎 各グループホーム 宿泊実績

((R3. 4月~R4. 3月))

項目 月	総宿 泊数	山田北前 (女性・4)	総宿 泊数	金剛沢 (男性・4)	総宿 泊数	西の平 (女性・10)	総宿 泊数	西の平 (男性・10)
4月	120	90	120	82	300	220	300	214
5月	124	85	124	75	310	229	310	197
6月	120	88	120	88	300	244	300	233
7月	124	80	124	80	310	241	310	220
8月	124	75	124	75	310	232	310	215
9月	120	82	120	82	300	248	300	227
10月	124	96	124	87	310	253	310	211
11月	120	93	120	78	300	234	300	197
12月	124	85	124	84	310	222	310	200
1月	124	93	124	84	310	228	310	203
2月	112	82	112	64	280	203	280	189
3月	124	96	124	93	310	244	310	202
合計	1460	1045	1460	972	3650	2587	3650	2508

●各グループホームの昨年度との比較

ホーム名	総 宿 泊 数		実 宿 泊 数		率	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
山田北前 (女)	1,460	1,464	1,045	986	71.5%	67.5%
金剛沢 (男)	1,460	1,464	972	904	66.5%	61.9%
西野平 (女)	3,650	3,660	2,587	2,690	70.8%	73.6%
西の平 (男)	3,650	3,660	2,508	2,445	68.7%	66.9%
計	10,220	10,248	7,112	7,025	69.5%	68.5%

●R3. 4月~R4. 3月 GHにおける宿泊実績

	総宿泊数	実宿泊数	率
今年度	10220	7112	69.5%
昨年度	10220	7025	68.7%

短期入所・日中一時支援事業所（ひだまりステイ）

* 国からの福祉事業所に対するコロナ感染予防に対する経費補助を受け、利用者の余暇支援のため、またオンライン研修等で活用するためのIT機器や感染対策の備品等の確保に充てた

【本年度重点目標】

現状の利用実績を保ちながら、より多様な利用ニーズに対応できるように支援します

【実施報告】

- ・ 毎月、ほぼ同じ利用者が利用している。確実に定期利用の利用者の受入れを行いながら、緊急的な受け入れを通所施設（西多賀工房・羽黒台工房）の協力を得ながら、対応を行った
- ・ 限られた支援体制の中、ほぼ計画通りに利用者の受入れを行うことができた
- ・ 利用者の相談支援事業所と関係を築き、利用者の課題共有や情報共有を積極的に行った

●登録者状況

登録者数	35人
------	-----

●利用実績

	日中一時		達成率	短期入所		達成率
	実績(日数)	目標日数		実績(日数)	目標日数	
月平均利用	19日	20日		17日	20日	
総利用日数	231日	240日	96%	208日	240日	87%

生活介護事業所（わらしべ舎羽黒台工房）

利用者19名（西多賀工房からの異動者（8名）、新規利用者（11名））と職員14名の支援体制で4月1日より、コロナウィルス緊急事態宣言の最中、「わらしべ舎羽黒台工房」は開所スタートいたしました。初めての場所、「はじめまして」の関係性の中、利用者同士、利用者と職員、職員同士の関係性づくりから、また活動、取り組み、利用者の役割づくり等も手探りで一步一步、積み重ねてきました。もうすぐ丸1年となる現在では利用者の活躍の場も広がり、表現も豊かになり、また個々の役割も生まれ、利用者と職員、職員同士の関係性は強まってきております。

コロナウィルスの感染状況を踏まえながら、盛大にはいきませんでした。利用者、家族、職員のみで「開所式&入舎式」を5月に開催することができました。

事業方針に掲げた「地域」、「役割」、「アート」、「挑戦（チャレンジ）」の4つのキーワードについては総評として、今年度は「はじめの一步」となる一年でした。「地域」についてはリサイクル活動（缶回収）への協力依頼を町内会長さんを通して行いました。（実現には至りませんでした。）救護施設太白荘さんと缶回収を通して繋がりができました。「役割」については利用者の施設内での活動や日常の中での役割を作り、継続して行えるよう取り組んできました。「アート」については利用者さんの表現方法や興味・能力等を探りながら、アートディレクターを中心に利用者の表現を広げていく活動に取り組んできました。また、アート展や展示会等へ積極的に参加し、カフェレストランにて、展示・販売をさせていただく機会を得ることができました。「挑戦（チャレンジ）」については利用者の興味・関心・強み・能力等を探りながら日々取り組む中で、さまざまな小さな挑戦を行い、利用者の経験を広げてきました。

2年目を迎える次年度はより、「地域」＝社会への発信を行い、より利用者の「役割」・同時に支援者の「役割」を創出し、より「アート」＝自己表現を引き出し、表現する機会を創出し、それらの具体的取り組みを「挑戦（チャレンジ）」精神で、実践できる1年にしていきます。

主だった動き・取組・出来事等	
4月	羽黒台工房開所
5月	開所式&入舎式
8月	・カレーツアー ・コロナワクチン接種（1回目）
9月	・コロナワクチン接種（2回目） ・河北新報にて記事掲載
10月	・収穫祭（サツマイモ堀） ・健康診断 ・「Art To You」公募展へ出展 ・Keyaki no Mori Café&Arts 展示&販売スタート
11月	・避難訓練 ・手洗い、手指消毒講習会
12月	・クリスマス会
1月	・初詣 ・成人を祝う会
2月	・嘱託医検診 ・節分 ・「きいて、みて、して大見本市」・「ピュア・ハート展」出展
3月	・お疲れ様会
会議・研修等	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・定例会（7, 10, 12, 2月） <li style="width: 50%;">・職員研修（8回） <li style="width: 50%;">・わらしべ舎会議（毎月第3木曜日） <li style="width: 50%;">・モニタリング会議 <li style="width: 50%;">・生きがい創造委員会 <li style="width: 50%;">・主任会議 <li style="width: 50%;">・アート会議

日中一時支援事業（わらしべ舎羽黒台工房）

定期的に利用する利用者が 1 名おり、入浴支援も必要な利用者で日中一時支援を利用時に車いす浴槽設備を使用して、入浴サービスも利用している。他数名の羽黒台工房利用者が活動時間後に 1 時間程度の利用があった。

【利用状況】

月	件数	入浴 利用	月	件数	入浴 利用
9	1		1	1	
10	2		2	2	2
11	4		3	1	1
12	2		計	13 件	3 件